

名古屋駅での危険な出区点検を改善せよ！ — 中部運輸局で触車事故の危険性を訴える —

2月13日、名古屋地本は中部運輸局で出区点検中で触車事故の危険があることを説明し、事故が起きる前に作業の改善をすることをJR東海に指導してもらうように要請をしました。

大垣運輸区の運転士が名古屋駅5番線で朝5時頃に102F列車の出区点検を行うときに隣接する4番線を貨物列車が通過し触車事故の危険が大きいというものです。この作業は、昨年3月のダイヤ改正から発生しました。以前は本線である6番線を貨物列車が通過していましたが、リニアの工事のため4番線を通過することで問題が起きました。

名古屋地本は昨年9月2日に問題を改善するように会社に申し入れを行いました。その後、業務委員会が開催されましたが会社は「貨物列車の通過時刻を周知し注意喚起している」として作業の変更を行いませんでした。貨物の運転士からは列車と反対向きで出区点検をしているから非常に危険であると貨物会社に報告があがっていました。

問題点

- 出区点検行う頃に時速45キロで長大編成貨物列車4本が通過する
- 5番線と4番線の間には柵やロープなどの安全対策はない
- 足下は給水のホースがあり不安定である
- 安全確保のための見張り員の配置はない
- 貨物列車は後ろから迫ってくる状況である
- パンタグラフの在視確認をする場合には通路からはみ出してしまう
- JR貨物会社の運転士もJR東海の運転士も危険を訴えている
- 作業要領には危険な場合は床下点検を省略できると書かれている

働いている者が危険と感ずることが一番の危険なのだ

運輸局からは「指導はできないがJR東海に問題があがったということは伝える。個人的には確かに危険であると感じる。貨物列車はダイヤ通りに運転することは難しいから、その時間のみを気をつければいいというものではない。現場にいる者が危険と感じていることは大きなことである」と話されました。